

国立病院機構 和歌山病院の実習を終えて



岩橋 孝弥

今回、日程上の都合で第二週目に和歌山病院実習を行いました。和歌山病院は結核拠点病院としての設備が整っており、今年四月に新築された結核病棟の見学もさせていただきました。

駿田副院長による、結核についての講義で知識を深めた後、実際に N95 をつけて結核病棟に行き、病室や結核の蔓延を防止するための工夫（陰圧にする、扉が閉まるまで次の扉を開けないなど）を目の当たりにしました。この実習に参加するまでは、結核とは空気感染し、感染力の高いものというイメージでしたが、結核のことを知った上でしっかり N95 をつけるなどの予防をすると、そこまで感染を恐れなくてもよいということが分かりました。結核の他にも、実際に患者さんがつけている酸素マスクをつけたり、様々な酸素マスクを見せていただきました。南方院長には X 線の読影法を教えていただきました。それまでなんとなくのイメージでしか X 線を見ておらず、どこことなく苦手意識を持っていましたが、講義を受けて理論的に見え方が説明できるようになりました。これからの実習でも多くの X 線を見ますが、今回の講義で得た知識を使って積極的に読影していきたいです。南方院長は、よく「記憶しようとするから忘れる。考えて覚えると一生忘れない。」とおっしゃっていました。単なる丸暗記ではなく、少しでも理論づけて覚えると、覚えやすさが全然違うと思うのでこれからはしっかりと考えながら学んでいきたいです。最後になりましたが、お忙しい中講義をしていただいたり、お世話していただいた先生方やスタッフの方々、ありがとうございました。